

◎特集 1 / 博物館企画展「柳沢吉保と甲府城」

◎特集 2 / 文学館企画展 深沢七郎の文学「檀山節考」ギターの調べとともに

- 社会生活にいきる読解力向上推進事業
- 「やまなし特別支援教育推進プラン」を策定しました
- 青少年教育施設の利活用
- 川端康成コレクションと東山魁夷
- 考古博物館特別展「縄文土器名宝展 ～縄文技術の到達点～」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク／富士吉田市歴史民族博物館、小淵沢絵本美術館
- らくがき 笛吹市立富士見小学校 原 善信 教諭
南アルプス市立櫛形中学校 田鹿欣孝 教諭
- 考古博物館「第9回わたしたちの研究室」の作品募集
- 学校紹介／甲府市立中道南小学校、富士吉田市立吉田中学校
- 総合教育センター情報／特別支援教育の専門性の更なる向上を目指して
- 新教育委員長・新教育委員就任挨拶
- 県立図書館／レファレンスの小道具「神々の黄昏」という詩が掲載されている本があるか
- 山梨の文化財／重要文化財 旧外川家住宅
- 主な行事予定



特集 1

秋期企画展「柳沢吉保と甲府城」

— 山梨県立博物館 —

江戸時代、甲斐国は將軍のお膝元である江戸を守る西の要衝として重視されました。こうした中、「犬公方」と呼ばれた五代將軍徳川綱吉の絶大な信頼を得て、甲斐国と甲府城を拝領したのが、柳沢吉保（一六五八～一七一四）です。

柳沢家は、平安・鎌倉時代以来の名門である甲斐源氏の一族・一条家の末裔にあたり、信濃国（長野県）との境界に近い武川周辺（北杜市）に土着した土豪集団・武川衆の一員でした。戦国時代、吉保の祖父信俊は武田家に仕えましたが、武田勝頼の滅亡後は徳川家康に出仕し、父安忠は館林藩主（群馬県）であった綱吉に仕えました。吉保は、十八歳の時に知行五百三十石を与えられ綱吉の小姓となり、やがて学問に熱心であった綱吉の弟子として寵愛されます。

延宝八年（一六八〇）に四代將軍家綱が亡くなり、弟の綱吉が將軍の地位を継ぐと、吉保の人生にも大きな転機が訪れます。すなわち、幕府の旗本となった吉保は、小納戸役として將軍の身の周りを整える間に頭角を表し、元禄元年（一六八八）には將軍と幕府政治を担う老中や若年寄、諸大名との間を取り継ぐ側用人に就任し、一万石の領地を与えられ大名に列しました。さらに元禄七年（一六九四）には、歴代の老中が城主となった川越城を拝領して七万二千石余を領し、綱吉のもとで元禄の世の幕府政治をリードしました。

こうした吉保の異例の出世ぶりは、しばしばテレビドラマなどで陰謀をめぐらす策略家として演出されていますが、吉保が諸大名と交わした書簡を見ると、幕府の行事や將軍の意向を気にかける大名たちに、吉保は懇切丁寧にアドバイスをしており、彼の律儀で誠実な仕事ぶりがうかがわれます。また、書簡を交わした大名の名前をあげると、御三家の紀伊藩主（和歌山県）徳川綱教や外様大名の雄である加賀藩主（石川県）前田綱紀、佐賀藩主（佐賀県）鍋島綱茂、また譜代大名の前橋藩主（群馬県）酒井忠孝、篠山藩主（兵庫県）松平信庸ほか多岐に渡ります。吉保の役割は、將軍を現在の内閣総理大臣に例えると、さしずめ総理大臣を補佐する官房長官と

いったところでしょうか。

さらに、吉保とその家族について見ると、正徳三年（一七一三）に正室の定子が亡くなった際、吉保は長文に渡る追悼の和歌を記しており、夫妻間の愛情の深さを感じることができます。また嫡子吉里に対しても、吉保は細かな教訓を残しており、子供への親の想いがうかがわれます。これら当時の資料から、ドラマに描かれた人物像とは全く異なる、吉保の実像をしのぶことができるでしょう。

やがて吉保は、宝永元年（一七〇四）に先祖の出身地である甲斐国三郡（山梨・八代・巨摩）十五万一千石を綱吉から拝領し、甲府城を居城として与えられました。また幕府直轄地となった郡内領を預けられ、柳沢家は甲斐一国を事実上支配することとなりました。吉保が拝領した十五万石余は幕府への奉公や家格の基準となる表高であり、実際には二十二万石余の知行を有していたこととなります。吉保は大名の中でも最高の家格である国持大名となり、「甲斐国主」と称することを幕府から許されたのです。この時から嫡子吉里が大和国郡山（奈良県）に転封となる享保九年（一七二四）までの二十一年間、甲斐国は柳沢家が治める時代を迎えました。

吉保自身は、幕府の大老格となり要職の地位にあつたため、江戸を離れることが許されず、生前に一度も甲斐国を訪れることはかたがたありませんでした。それだけに先祖の地甲斐国への吉保の思い入れは強く、甲府に配置した留守居役の家臣に対して、直筆により事細かな指示を送っています。特に吉保が意を注いだのは、甲府城の整備でした。十六世紀末の豊臣政権の時代に本格的に築城された甲府城は、將軍家の一族の居城や幕府の直轄になりましたが、吉保の時代に花畑曲輪が設けられたほか、楽屋曲輪や屋形曲輪に御殿が造られ、城内の施設が整えられました。また城下町も整備され、伊勢町↓山田町（甲府市中央二丁目・三丁目）、河尻町↓緑町（甲府市若松町）のように地名が変更されています。その様子は、当時「棟に棟、門に門を並べ、作り並べし有様は、是ぞ甲府の花盛り」と謳われるほどの繁栄を極めました。こうして柳沢家のもとで甲府城や城下町が整備される中、元禄の世の華

やかな大名文化が甲斐国に伝わりました。恵林寺（甲州市）には、吉保夫妻が愛用した武具や化粧道具、香道具（山梨県指定文化財）などが遺されています。また吉保は、駒込（東京都文京区）にあった江戸下屋敷に六義園（東京都文京区）を造営し、晩年はその地で余生を送りました。現在の特別名勝に指定されている六義園は、江戸時代を代表する名園として、多くの人々が訪れています。

さらに吉保は、江戸時代、中国から新たに伝わった禅宗である黄檗宗を深く信仰し、宝永七年（一七一〇）には、大本山万福寺（京都府）の八代住持悦峰道章禅師を開山に招いて、岩窪（甲府市）に自身の菩提寺である永慶寺を建立しました。当時の境内図を見ると、多くの堂舎が建ち並び大伽藍が整備された様子がわかります。しかしながら、柳沢家が甲府郡山に転封となった際、吉里は止むを得ず吉保夫妻の墓所やゆかりの品々を永慶寺から恵林寺に移し、永慶寺の伽藍を破却したため、永慶寺はいわば「幻の寺」として考えられてきました。

ところが、今回、柳沢家とともに郡山に移転した永慶寺に伝わる寺宝を調査させていただいたところ、甲府時代の柳沢家や永慶寺にゆかりのある品々を数多く発見することができ、甲府で栄えた柳沢家の信仰や文化が、郡山の地に受け継がれたことが明らかになりました。

また、吉保・吉里父子は、自分たちが甲斐源氏の末裔であることを強く意識するとともに、武田信玄を崇拜し、その伝統を引き継ぎました。吉保は、甲斐国を拝領した翌年にあたる宝永二年（一七〇五）に、信玄の菩提寺である恵林寺で、彼の百三十三回忌の法要を営み、信玄佩用と伝わる太刀銘来国長（重要文化財）を奉納して、自らが信玄の後継者であることを世に示しました。画才のあった吉里も、恵林寺に伝わる武田信玄像（甲州市指定文化財）や、大和郡山市の柳沢文庫に伝わる武田二十四将図を描いています。

柳沢家が甲斐国を治めたのはわずか二十年間のみでしたが、この間、県都甲府市の城郭や街並みが整備されるとともに、現在につながる武田信玄への敬慕の念が高まるなど、吉保は現在の山梨に数多くの影響を残したといえるでしょう。

「柳沢吉保と甲府城」展では、県内外に伝わる吉保の肖像画や彫像が初めて一堂に会するとともに、吉保の書簡や甲府城跡から出土した当時の遺物、また恵林寺に伝わる吉保・定子夫妻愛用の調度品や家老家出身の柳沢淇園

が描いた文人画、さらに永慶寺に遺されたゆかりの品々など、これまでほとんど公開されたことのない、柳沢家ゆかりの貴重な文化財が数多く展示されます。ぜひ、御期待ください。

○主催 山梨県立博物館、甲府市、(財)自治総合センター
 ○開催期間 平成二十三年十月八日(土)～十一月二十八日(月)

※期間中に展示替えがあります。

○場所 山梨県立博物館(笛吹市御坂町成田1501-1)
 ○観覧料 一般/一〇〇〇円(八四〇円)、高校・大学生/五〇〇円
 (四二〇円)、小・中学生/二六〇円(二一〇円)

常設展+企画展共通券 一般/一二四〇円、

高校・大学生/五八〇円、小・中学生/二九〇円

※各種割引等あり。詳しくはお問い合わせください。

○主なイベント

・柳沢吉保にまつわる歌と語りと音の会 十月二十三日(日) 十三時三十分～十四時三十分、会場 企画展示室前ロビー

・シンポジウム「柳沢吉保と甲府城」 十月三十日(日) 十三時～十六時三十分、会場 山梨県総合教育センター大研修室(博物館となり)

・茶道を体験してみよう! 十一月二十七日(日) 十三時三十分～十四時三十分、会場 企画展示室前ロビー

○お問い合わせ 山梨県立博物館 (TEL 〇五五―二六一―二六三一、
 FAX 〇五五―二六一―二六三二)



絹本着色 柳沢吉保像
 (山梨県指定文化財、甲府市 一蓮寺蔵)

特集 2

秋の企画展 深沢七郎の文学「楢山節考」ギターの調べとともに

— 県立文学館 —

◆ 笛吹市石和町出身の小説家です。

深沢七郎（一九一四～一九八七）は、東八代郡石和町（現・笛吹市石和町）に生まれ、一九三二（昭和六）年、旧制日川中学校（現山梨県立日川高等学校）を卒業。中学の頃から熱中していたギターを本格的に習い始め、ギターリサイタルを開催し、戦後は日劇ミュージックホールの公演に出演するなど、ギタリストとして活躍しました。

一九五六（昭和三十一年）年、四十二歳の時に、日劇ミュージックホールの演出家・丸尾長頭のおすすめで、第一回中央公論新人賞に応募、満場一致で「楢山節考」の受賞が決定しました。

「山と山が連つていて、どこまでも山ばかりである」の書き出しで始まる「楢山節考」は、姥捨て伝説を題材に、東八代郡境川村（現・笛吹市境川町）の大黒坂をイメージして執筆されました。選考委員の三島由紀夫は「総身に水を浴びたような感じがした」と評し、正宗白鳥は「人生永遠の書の一つとして心読したつもりである」と絶賛するなど、当時の文壇に大きな衝撃をあたらえました。

その後、「楢山節考」は映画化され、舞台でも上演されて、広く親しまれてきました。また、仏訳をはじめ世界各国の言語に翻訳され、多くの読者を得ています。

◆ 甲州を舞台にした小説『笛吹川』

続いて、一九五八（昭和三十三年）年には、笛吹川の川筋を舞台に、戦国時代の武田家の盛衰とともに生きた農民一家を描く「笛吹川」を発表。幾世代にもわたる生と死の連鎖が淡々と描かれたこの作品は、発表直後から批評家間でその評価が分かれ、文芸誌上で論争がおこるほど話題をよびました。



1957年1月 提供 中央公論新社

深沢七郎は、「楢山節考」や「笛吹川」など土着のイメージを描いた作品を発表する一方で、「東京のプリンスたち」「千秋楽」など、都会で生きる人々を主題とした作品も執筆していますが、そこには常に現実を生きる庶民の姿が描かれています。

◆ 「ラブミー農場」で自給自足の生活

一九六五（昭和四十一年）年、埼玉県菖蒲町に居を定め自給自足の生活に入ります。

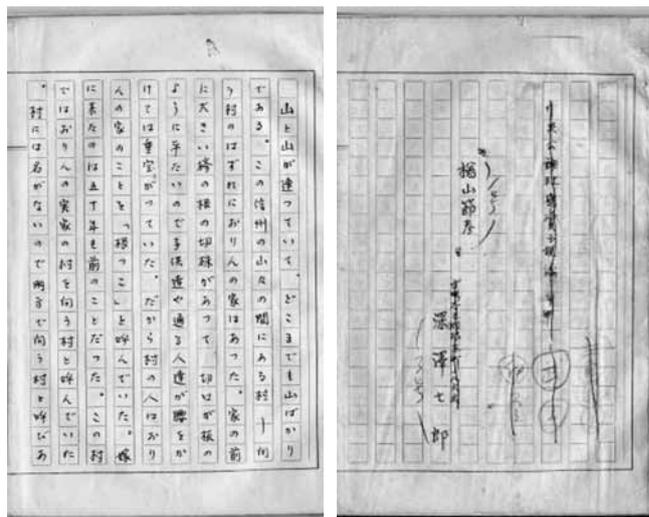
住宅のまわりの田畑をエルピス・プレスリーの名曲「ラブミー・テンダー」に因んで「ラブミー農場」と名付け、農業に従事します。ラブミー農場には、小説家の立松和平、嵐山光三郎、芸術家の篠原勝之や、深沢七郎を慕う多くの若者らが訪れました。

さらに、六年後には、東京の東向島に今川焼屋「夢屋」を開業するなど、意表を突く行動はマスコミの関心呼びました。

一九八一（昭和五十六）年、六十七歳の時に「みちのくの人形たち」が谷崎潤一郎賞を受賞しますが、六年後の一九八七（昭和六十二年）八月、心不全のため亡くなりました。

◆ ギターの調べとともに

ギタリストとしても活躍した深沢七郎の作品には、「デビュー作『楢山節考』をはじめとして、音楽が様々な形で影響を与えています。」「ギターを弾くことは病むことと同じだと私は思う。どう抵抗しても弾くことはやめられない。（略）小説を書くことも、また、病気だと思う」と語る深沢七郎の起伏に富んだ生涯と作品の世界を、原稿・書簡・愛用のギターなど約一五〇点の資料によって紹介します。



「楢山節考」原稿

◆観覧料

- 一 般 六〇〇円(四八〇円)
- 大・高生 四〇〇円(三二〇円)
- 中・小生 二五〇円(二〇〇円)

* () 内は二十名以上の団体料金、宿泊者割引料金です。

小・中・高・特別支援学校生は土曜日は無料。県内の六十五歳以上の方、障がい者及び介護者は無料。

◆関連事業

○対談・講座

十月一日(土) 研修室 定員一五〇名
午後一時三十分～二時三十分

「深沢七郎の文学 そこに秘められたもの」

京谷秀夫 (元中央公論社編集者)

近藤信行 (当館館長)

午後二時三十分～三時三十分

「山梨にのこる深沢七郎の足跡」

保坂雅子 (当館学芸員)

○講演会

十月十六日(日) 講堂 定員五〇〇名

午後一時三十分～三時

「奇跡の文学」

中沢新一 (思想家・人類学者)

○朗読劇

十一月六日(日) 講堂 定員五〇〇名

午後一時三十分～三時

劇団芸協「楢山節考」

* 対談・講座、講演会、朗読劇は、当館まで電話かファックスでお申し込みください。

○文学散歩

十月二十二日(土)・十月三十日(日)

* 詳細は、(社)やまなし観光推進機構 (電話〇五五―二三一―二二三〇 FAX 〇五五―二二一―三〇四〇) へお問い合わせください。

○ギターリートーク (展示解説)

会期中の日曜日、十一時から約十五分間、企画展示室内で説明をさせていただきます。申し込み不要。企画展観覧料が必要です。

◆問い合わせ・申し込み先

山梨県立文学館

電話 〇五五―二三五―八〇八〇

FAX 〇五五―二二六―九〇三二



『笛吹川』1958年4月
中央公論社 装幀 谷内六郎

『ザ・読解力』（小・中学校版）で子どもたちと楽しく考える授業を！

— 社会生活にいきる読解力向上推進事業・義務教育課 —

はじめに

県教育委員会では、平成二十年度より六か年計画で本事業に取り組んでいます。平成二十年度は、県下公立中学校の二年生に、平成二十一年度は公立小学校の五年生に読解力育成のための冊子『ザ・読解力』を作成・配布し、現在各教室で活用しています。

また、昨年度は、教師のために『読解力向上のための実践事例集』（小・中学校版）も作成・配布しました。

◇『読解力』とは？

従来から「読解力」といえば、文章に書かれている内容を正しく読み解く力をさして言います。しかし、ここでいう「読解力」は、OECD（経済協力開発機構）が行っている国際テストの領域であるリーディングリテラシーを訳した言葉です。

この力は、目的をもち、文章だけでなく図表などの資料から情報を集め、批判的に考えながら、自分の考えを表現するまでの力で、国際的には、これからの社会に必要な学力だとされています。『ザ・読解力』で付けようとしているのは、この新しい「読解力」であり、生きてはたらく国語の能力、とりわけ論理的思考力を育て、テキストを解釈し、熟考・評価し、自らの考えを表現していく力をさしています。

具体的な目標は次のようなものです。

① 様々な文章や資料を理解・評価しながら読む力

- ア 目的に応じて理解し、解釈する力
- イ 評価しながら読む力
- ウ 課題に即応した読む力
- エ 多様なテキストに対応した読む力
- ② テキストに基づいて自分の感じたことや考えたことを簡潔に書く力

- ア テキストを利用して自分の考えを書く力
- イ 日常の実用的な言語活動に生かす書く力
- ウ 自分の感じたことや考えたことを簡潔に書く力

端的に言えば、「目的に応じて、いろいろな資料から必要な情報を読み取って、それらを利用して表現する力」をさします。

◇『ザ・読解力』（小・中学校版）の内容

この冊子は、市販されているドリルなどとは違い、学校の授業で友達と交流などをしながら考える「課題」に取り組む形になっています。

例えば、小学校版では、

- 資料やグラフから森林のはたらきを読み取り山梨の森林について考える。（社会）
- 雨をテーマとした二つの曲について、「調」の違いから曲想を感じ取り伝え合う。（音楽）

また、中学校版では、

- 古文の笑い話を読み、作品構成の発想をまねて物語を創作する。（国語）
- グッドデザイン賞に選ばれた作品の魅力を探り、自らも身近なグッドデザインを見つけ、理由を付けて発表する。（美術）

といったものです。

各教科で教科書を中心に学習した基礎的・本的な知識・技能を活用して解決できる課題としました。また、

社会の中で目にする出来事を対象としていますので、子どもたちも楽しんで取り組みます。



詳しくは、次の国語力向上推進事業HPを御覧ください。指導案やワークシートもこちらからダウンロードできます。

<http://www.ypec.ed.jp/simukyo/kokugo/kokugo-index.html>

◇『ザ・読解力』（小学校四年生版）について

現在、新しい教科書に対応した小学校四年生版の作成をすすめており、こちらは平成二十四年度に発行する予定です。ご期待ください！

◇『読解力向上のための実践事例集』について

今年の四月に各学校に配布した本事例集（小・中学校版）については、各教科の事例を指導案とワークシートで掲載しています。「読解力」の向上について、ぜひ参考にしてください。

注 テキスト…文章だけでなく、図表や絵画、写真、数式、音楽など表現されたものも指します

「やまなし特別支援教育推進プラン」を策定しました

— 新しい学校づくり推進室 —

県教育委員会では、障害のある子どもたち一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実に向け、今後十年間の方向性を示す「やまなし特別支援教育推進プラン」を策定しました。

□ 対象期間

平成二十三年度から平成三十二年まで

□ 主要な内容

○ 特別支援学校における支援体制の整備（教育の充実）

軽度の知的障害のある生徒に対する高等部教育の充実のため、知的障害特別支援学校に高等部専門学科の設置を進めます。

また、肢体不自由特別支援学校高等部への病弱な生徒の受け入れや理学療法士の配置、障害種別に応じた教育の充実に取り組むとともに、多様化する障害に対応できる教育課程の充実を図ります。

（施設整備・大規模化の解消）

教室不足について、早急に解消を進め、老朽化が著しい施設については、改築等による整備を検討します。

また、児童生徒の障害の特性に応じた施設環境を整えるため、将来的な整備の方向性について検討を進めます。

知的障害特別支援学校の大規模化の解消について、検討を進めます。

（センター的機能の充実）

各校の専門性と経験を生かし、効果的な支援を行います。

職員の配置を拡大し、センター的機能の充実を図ります。

○ 就学前、小・中学校及び高等学校における特別支援教育の充実（就学前）

市町村の担当者を対象に、就学相談に関わる専門研修を実施するなど、市町村教育委員会の主体的な就学指導が行えるよう、情報提供や助言を行います。

福祉・保健関係者との情報共有の場の設置に向けた支援や「相談支援ファイル」の活用を進めます。

（小・中学校）

校内委員会の充実、コーディネーターを中心とした連携の強化、「個別的教育支援計画・指導計画」の作成等により、組織的、計画的な支援体制の構築を進めます。

特別支援教育の考え方に基づいた学級経営を進め、学習指導の充実を図ります。

「いっしょに発達」のサポートルーム（仮称）の設置を推進します。

（高等学校）

センター的機能の活用を促進するとともに、支

援員の効果的な配置方法を検討します。
また、関係機関や経済団体等との連携を強化し、就業支援を充実させます。

○ 交流及び共同学習の推進

障害のある幼児児童生徒の社会性を養うとともに、保護者及び地域の人々の障害児者への理解を深めます。

○ 教員の専門性の向上

管理職、コーディネーター、特別支援学級担当者等、それぞれの役割に応じた研修を実施します。

また、小・中学校及び高等学校と特別支援学校の教員の人事交流を進めます。

今後は、本県の特別支援教育が、特別な支援を必要とする児童生徒にとって、魅力あるものとなるよう、プランに基づいた施策の着実な実施を図っていきます。

本県の特別支援教育の推進のため、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

※「やまなし特別支援教育推進プラン」は県ホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/gakkosui/tokubetsushien/tokubetsusisin-plan.html>

生きる力、豊かな心を育むために（青少年教育施設の利活用）

— 社会教育課 —

県内には、青少年自然の里と少年自然の家が各2箇所、計4箇所の自然体験ができる県立の青少年教育施設があります。

いずれも、その立地条件を十分に活かし、特色ある体験プログラムを提供しています。

学校行事等では、夏までの期間に多くご利用をいただいておりますが、秋以降についても、その季節ならではの自然とのふれあい、発見、感動を得ることができます。施設では、そのための体験プログラムをたくさん用意しています。

さらに、それぞれの施設には、体育館やホール、研修室、野外活動広場等があり、様々な活動が出来ます。クラブ活動や、グループ学習、また食育に関する活動

などにおいて、多様な御利用をいただけるものと思います。

また、各施設では個人で参加いただける各種主催事業も実施しています。対象は、子どもから大人まで、家族で参加いただけるものもあります。是非、一度御参加ください。各施設の魅力を十分に感じていただけます。

下記一覧に、各施設の連絡先とHPアドレスを掲載しました。利用方法やプログラム内容、主催事業等について、お気軽にお問い合わせ下さい。

自然の中で、日頃、学校や家庭で得難い体験をすることにより、「生きる力」「豊かな心」を育む青少年教育施設を、どうぞご活用下さい。

施設名	所在地 HPアドレス	主な施設内容
山梨県立 なかとみ 青少年自然の里	〒409-3313 南巨摩郡身延町平須306 電話 0556-42-3181 http://www14.plala.or.jp/n-sato/	宿泊室 4 (28人用1室、24人用3室) リーダー室 4 (2人用4室) 陶芸工房 1 (60人) 和紙工房 1 (50人) 体育館 (505㎡) キャンプ場 定員100人 (バンガロー2、スペースキャビン5、テントサイト13)
山梨県立 ゆずりはら 青少年自然の里	〒409-0111 上野原市桐原13880 電話 0554-67-2333 http://yamanashikenshizenosato.web.fc2.com/	宿泊棟 3 (26人用3棟) 家族棟 4 (4人用4室) 身障者棟 2 (2人用1室、4人用1室) 多目的ホール 1 (150人) キャンプ場 定員100人 (テントサイト10)
山梨県立八ヶ岳 少年自然の家	〒407-0301 北杜市高根町清里3545 電話 0551-48-2306 http://www12.plala.or.jp/yatsugatake/	宿泊室 26 (8人用20室、10人用4室、5人用2室) 講堂 1 (200人) プラネタリウム 1 (50人) 体育館 1 (787㎡) クラフト室 2 (40人2室) 研修室 3 (30人1室、40人1室、50人1室) キャンプ場 定員180人 (テントサイト36)
山梨県立愛宕山 少年自然の家	〒400-0023 山梨県甲府市愛宕町358-1 電話 055-253-5933 http://www9.plala.or.jp/atagoyama/index.html	宿泊室 15 (10人用) リーダー室 1 (5人用) 大ホール 1 (イス席100人程度) 工作室 1 (50人) 研修室 2 (30人2室) (愛宕山こどもの国が管理する施設) キャンプ場 定員100人 (テントサイト20)

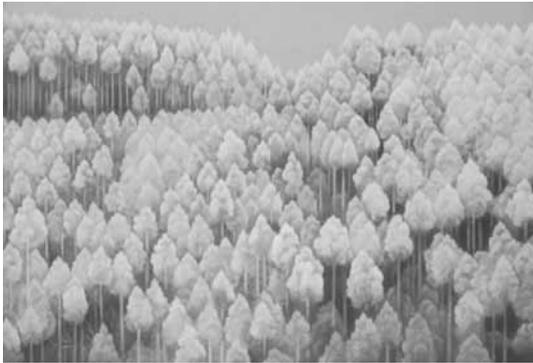
利用料金 (一人一泊 食事は別)	青少年自然の里		少年自然の家	
	宿泊棟	キャンプ場	宿泊棟	キャンプ場
県内小中学校等並びに青少年育成団体の行事利用	210円	100円	100円	75円
県内の3歳以上の幼児、小・中学生、高校生等の利用	420円	210円	210円	150円
県外者、学生、社会人等の利用	840円	420円	310円	310円

青少年自然の里は15名以上、少年自然の家は10名以上の団体にご利用いただけますが、同日に他の団体利用がある場合は少人数の団体もご利用が可能になります。

川端康成コレクションと東山魁夷

— 県立美術館 —

日本人初のノーベル文学賞受賞者の川端康成（1899～1972）は、美術に深い造詣を持ち、コレクターとしても知られます。日本画家の東山魁夷（1908～1999）は、昭和30（1955）年に川端邸へ訪れて以来、川端と浅からぬ交流を持ちました。しばしば川端は、東山の作品を購入し、画集へ序文を寄せ、東山は、作品を贈り、川端作品の挿絵や装丁を手がけました。本展は、川端が収集した美術品を中心に、川端から触発された東山の美術コレクション、さらには両家の所蔵する初公開を含めた東山の作品を紹介します。



東山魁夷《北山初雪》昭和43（1968）年

川端コレクションは、土偶、埴輪、仏像、絵画、近代工芸などの日本美術や、中国と朝鮮の陶器や漆器などの東洋美術と幅広く、さらにはロダン、ルノワールといった外国人作家の作品も華を添えています。中でも池大雅と与謝蕪村による合作《十便十宜図（じゅうべんじゅうぎず）》と浦上玉堂《凍雲篩雪図（とううんしせつず）》は、後に国宝に指定された名品です。

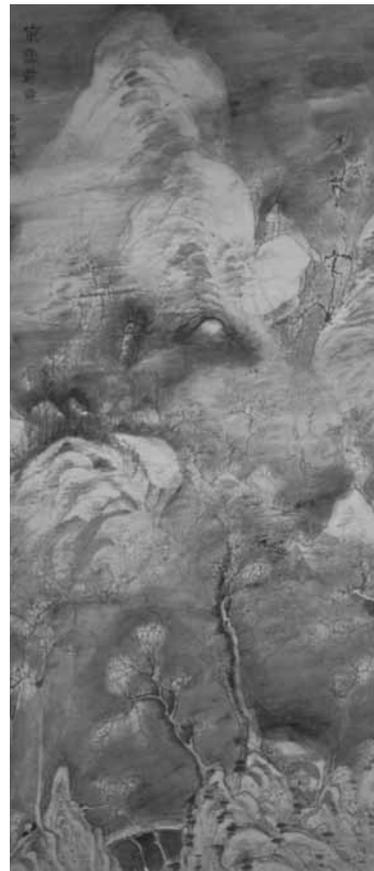


池大雅《釣便図》（《十便図》より）
明和8（1771）年

一方、東山はガンダーラ仏像、ローマン・グラス、ペルシャ陶器、中国の俑や陶磁器、そして日本の仏像、絵画、旧家伝来の茶道具や近代工芸など、古代ヨーロッパから東洋にいたる美術を幅広く収集し、それらの色彩や造形が創作の源となり、時には一服の清涼剤となりました。本展では、ほとんど公開されることのなかったこれら東山コレクションからも選りすぐりの優品を紹介します。

本展は、昭和の文壇と画壇を代表する両雄の美術コレクションを一望するまたとない機会として、来館者を魅了することでしょう。

なお会期中、9月27日午後4時から「教師のための鑑賞研究会」を開催します。美術の先生だけでなく、国語の先生も必見ですので、お見逃し無く。



浦上玉堂《凍雲篩雪図》江戸時代（19世紀）

会期：9月17日～11月6日

料金：一般1,000円 大高生500円

中小生260円

第29回特別展「縄文土器名宝展～縄文芸術の到達点～」

— 県立考古博物館 —

山梨県を含む中部高地は、縄文時代の遺跡が数

多く知られ、縄文文化が最も栄えた地域の一つで

す。特に今から約五千年前の縄文時代中期には、

を展示します。

関東甲信越から東北地方南部にかけての地域で装

3 ドーナツ状の突起、渦巻く曲線、
華麗な文様世界

飾性に優れ、芸術性の高い土器が数多く出土して

北関東地域に分布する焼町土器文化がここに一気に

います。

に花開きます。焼町土器は、新潟県の火焰型土器の

考古博物館ではこの秋の特別展で、国の重要文

影響を受けて作り出された土器です。火焰型土器と

化財50点を含む、約1000点の縄文土器を展示し

4 各地に影響を与えた、
東北の優美な文様の世界

ます。山梨県で重要文化財に指定されている一の

東北南部地域に分布し、各地の土器に影響を与

沢遺跡（笛吹市）から出土した土器をはじめ、新

えた奥深い文様を持つ大木式土器を展示します。

潟県の火焰型土器など各地の特色ある土器とを比

各地域の土器と比較してください。

較することで、山梨県の独自性を探ります。

5 突き上げる力、
そして水けむりのような文様

絢爛豪華な各地の縄文土器の逸品の数々を、ぜひ

山梨県を含む中部高地に分布する水けむりを表

ひこの機会にご覧ください。

現したような水煙土器をはじめ、絢爛豪華な土器

◆展示の構成

を一同に展示します。県内の重要文化財に指定さ

◆展示の構成

1 縄文芸術の競演

れた土器も大集合します。

今回展示する各地の代表的な縄文土器を一同に

◆特別展の概要

展示します。各地の装飾豊かな縄文土器を相互に

開催期間：平成二十三年九月二十八日（水）～

比較し、縄文文化の奥深さに触れてください。

十一月二十三日（水・祝）

2 燃え上がる火焰型土器の世界

十一月二十三日（水・祝）

新潟県地域に分布する火焰型土器・王冠型土器

十一月二十三日（水・祝）

の迫力に迫ります。国宝に指定されている笹山遺

毎週月曜日休館（ただし十月十日は開館）

跡（新潟県）出土火焰型土器の複製品や、道尻手

観覧時間：午前九時～午後五時

遺跡（新潟県）から出土した最大級の火焰型土器

（入館は午後四時三十分まで）

観覧料：一般、大学生 六〇〇円

小・中・高校生 三〇〇円

お問い合わせ：山梨県立考古博物館

電話 055-266-3881

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>



写真右：安道寺遺跡出土土器（当館所蔵）

写真左：国宝笹山遺跡出土火焰型土器（新潟県十日町市博物館所蔵）

（入館は午後四時三十分まで）

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

富士吉田市歴史民俗博物館 (富士吉田市)

富士山信仰と富士吉田市の歴史文化を学べる博物館です。常設展示は、メインテーマである「富士山の信仰」、地場産業であった甲斐絹を取上げた「地域をささえた産業」、縄文時代から近現代にいたるまで通史を展示した「富士吉田の歩み」、日常生活での道具類や祭りに関する民俗資料を展示した「日々の暮らしと祭り」の4つのテーマで構成しています。

博物館エリア内には、江戸時代の農家2棟、御師住宅（模造復原）が移築復原してあり、自由に見学することができます。

また、付属施設として「御師 旧外川家住宅」（重要文化財）を公開しています。

◆富士吉田市歴史民俗博物館

住 所：富士吉田市上吉田 2288 - 1
電 話：0555-24-2411
担 当：赤池（総務）・布施（学芸）

休館日：火曜日（祝日の場合はその翌日）年末年始
入館料：一般 300 円・小中高生 150 円
※ 土曜日は小中高生無料
※ 20 名以上は団体割引

駐車場：無 料
第1 駐車場（普通車 20 台／大型 5 台）
第2 駐車場（普通車 34 台／大型 6 台）

URL：http://www.fy-museum.jp

◆御師旧外川家住宅

住 所：富士吉田市上吉田 3 - 14 - 8
電 話：0555-22-1101
休館日：火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始
入館料：一般 100 円・小中高生 50 円
※ 土曜日は小中高生無料
※ 20 名以上は団体割引
駐車場：無料（普通車 20 台）



外 観



展示室



外川家住宅

八ヶ岳高原 小淵沢絵本美術館 (北杜市)

◆美しい絵本に囲まれた森の中の夢の空間◆

八ヶ岳山麓の森の中の小径をすすむと、小淵沢絵本美術館があります。さながらそれは、グリム童話の「赤ずきんちゃん」や「白雪姫」の森の舞台のような佇まいです。絵本画家のメッセージをより強く読者に伝えたいとの思いから、この場所が選ばれました。

◆生きていることの意味や、楽しさを伝えたい◆

絵本画家は、人と人あるいは人と動物たちの様々なふれあいの姿を絵本という形で描き表現しています。そして、私たちがこの世界で生きていることの意味やその楽しさを伝えようとしています。小淵沢絵本美術館では、欧米や日本の絵本画家たちの優れた絵本や原画を数多く展示してい

ます。そしてこの素晴らしい絵本の世界が多くの人に夢や感動を与えられるよう願っています。

住 所：北杜市小淵沢町上笹尾 3331 - 441
電話番号：0551-36-5717

担当者：望月
休館日：毎水曜日（但し、祝日の場合開館）
夏期（7月、8月、9月）は無休
入館料：小学生以上一律 600 円（幼児無料）
飲み物（コーヒー、ジュース等）サービス付

駐車場：無料（普通 15 台）
交 通：JR 中央線「小淵沢」駅下車、徒歩 30 分、
タクシー 5 分、中央道小淵沢 IC より 5 分



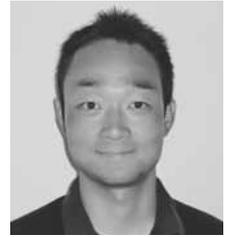
人気のあるターシャ・テューダーの部屋



美術館内のショップ



らくがき



チームプレー
原 善信

今年7月、女子サッカー日本代表「なでしこジャパン」の活躍が、日本中に感動と希望を与えました。スポーツの力を改めて感じる出来事でした。

私もスポーツが大好きで、アメリカンフットボールのチームに在籍しています。メジャーではありませんが、とても面白いスポーツだと思います。一番の特徴は、ポジションごとに役割が明確に分かれていることでしょうか。「ボールを持って走る」専門の人、「パスを捕る」専門の人、「相手を押す」専門の人…。球技であるにもかかわらず、ルール上、ボールに触れないポジションもあります。当然、運動の特性も様々。ですから同じチームに身長190cm、体重120kgの人もいれば、160cm、60kgの人も。そんな一見ばらばらなメンバーが、力を合わせて一つのボールを前進させていく。それがフットボールの醍醐味でもあります。

私はよく学級をスポーツチームにたとえて、子どもたちに話をします。見た目も考え方も、得意・不得意も、好き・嫌いもみんな違う。そんな様々な個性をもったメンバーが、その違いを生かし、認め合い、助け合い、競い合って学級集団を前進させていく。そんな素晴らしい「チーム」になることを願って、今日も子ども達と一緒に、全力で「プレー」しています。

(笛吹市立富士見小学校)

スポーツ万歳!!
田鹿欣孝

突然ですが…、私はスポーツが大好きです。今(7/24)もこの原稿を書きながら、世界水泳・高校野球神奈川大会・男子ゴルフ・大相撲がテレビで放送されているので、忙しくチャンネルをまわしています(全然集中できません…)

スポーツの語源であるラテン語の「deportare(デポルターレ)」には、「気晴らしをする」「遊ぶ」「楽しむ」という意味があります。スポーツと私の関係をさかのぼると、小学校低学年で水泳、高学年から中学校では野球、高校ではバスケット、大学ではバレー、現在はスノーボードやゴルフなど…。運動好きの父の背中を見て育った私は、これまでに多くのスポーツと触れあい、遊んだり、楽しんだりしてきました。そしてスポーツから色々な力をもたらしてきた気がします。「身体的な力」「技能的な力」「考える力」「我慢する力」「仲間をつくる力」など…。これらの力が今の私=「田鹿欣孝」を創り上げたと言っても過言ではありません…!?

現在、体育教師の職に就き、毎日スポーツと触れ合っています。幸せです。「50歳になっても全単元で生徒に見本を示す」これが体育教師としての私のモットーです。そのためにも、これからも毎日スポーツを通して色々な力を養っていきます!!そしてその力を、子供たちのため、自分自身のために活かしていきます!!

スポーツ最高!!スポーツ万歳!!

(南アルプス市立櫛形中学校)

「第9回わたしたちの研究室」の作品を募集しています!!

県立考古博物館

この研究室は、県内の小学校、中学校および特別支援学校の小学部・中学部のいずれかに在籍する児童・生徒または山梨県在住の児童・生徒を対象とした、考古学に関する研究成果を募集・表彰し、広くその成果を発表する機会を設けることを目的とし、考古学の楽しさを知ってもらうとともに、調べる、まとめるという力をつけ、より一層の研究活動を推奨する機会としたもので、今年度で9回目を迎えました。

作品の内容は、山梨県の考古学や歴史学などの社会科歴史的分野に関係する研究成果を内容とし、学校外において未発表のもので、おおむね1年以内の研究成果を募集いたします。

募集の種別は、個人研究部門の小学校の部・中学校の部、団体研究部門の3つに分かれています。個人研究部門では、児童・生徒がそれぞれ自由なテーマで、又は教育課程にお

いて統一したテーマで取り組んだ個人研究対象とし、団体研究部門では、学級・学年・学校(部活動等を含む)で行った研究または統一したテーマのもとで研究した児童・生徒個人の成果をとりまとめたもの、あるいはその指導過程を対象とします。

夏休みの課題(自由研究)や総合的な学習の時間で取り組んだ歴史研究に取り組んだ研究成果を是非ご応募下さい。

作品の応募期間は、平成23年9月1日(木)～11月30日(水)までです。

応募等に関する詳細は、当館ホームページをご覧になるか、県立考古博物館までお問い合わせ下さい。

TEL 055-266-3881 (山梨県立考古博物館)



昨年度最優秀賞(山梨県教育委員長賞)授与の様子



昨年度作品展示の様子(応募全作品を展示します)

しなやかな「体と心のストレッチ」を通して ～地域に学び、地域に飛び出し、地域とともに歩む学校づくり～

甲府市立中道南小学校

本校は甲府市立となり6年目。市の最南端に位置する自然環境豊かな果樹農村地帯です。駿河と甲府を結ぶ「中道往還」もあり、古い歴史と文化の息づく地域でもあります。卒業生に歌人・山崎方代がおり、全校で短歌づくりにも取り組んでいます。児童数150名の小規模校ですが、地域との連携を大切にしながら、縦割り活動で仲間づくりに励んでいます。

◇「南小ストレッチ体操」で体のストレッチ

平成21・22年に、スポーツドクターの協力を得て「運動器検診」を実施しました。その結果、児童の骨の異常や体の固さが発見され、その課題解決のために「夢をかなえてドラえもん」の曲に合わせたストレッチ体操を考案しました。この体操は体育や運動会だけでなく、毎日の朝の会で実施するまでに定着しています。

この検診は今年度も実施され、児童の体の柔軟性の高まりやけがの減少が成果となって現れています。

◇福祉教育と読書を通して心のストレッチ

本校では3年生は地域巡りと保育所訪問、5年生はデイサービスのお年寄り訪問、6年生は身障者療護施設「麦の家」訪問など、地域に飛び出す福祉教育にも積極的に取り組んでいます。

また、読書活動にも力を入れ、朝読書や地域人材を活用した「読み聞かせ」も実施しています。他に、親子読書、図書集会なども実施する中で、読書活動が盛り上がり、児童の読書量も年々、増加してきています。

これらの活動は、思いやりの心を育て、人への共感を育み、思考力や想像力をも培う、「心のストレッチ」となっています。



南小ストレッチ体操



地域巡りで方代歌碑見学



ボランティアによる読み聞かせ

全校富士登山

富士吉田市立吉田中学校

本校では、平成9年度に創立50周年を記念して、富士吉田登山口から5合目までの、全校富士登山を行いました。以来、平成23年度で第14回目（平成17年度は中止）の実施となりました。

その目的は、特色ある学校づくりと総合的な学習の時間での富士山学習の一環として位置づけています。具体的な実施目的は、「富士山に最も近い学校」との自負の下、歴史的、地理的、経済的にも、富士山とのつながりの深い上吉田・新屋・松山地区を学区に持つ吉田中学校の生徒が、より富士山の自然・文化・歴史等への理解を深め、自らの寄って立つ地域を知ることにより、自らを理解する機会としています。

生徒たちは、事前に学年、学級において自然・文化・歴史を

富士山学習として学び理解を深めています。7月3日の当日は、全校生徒652名中、614名が参加しました。実施にあたり70名ほどのPTAの方々にも中の茶屋から馬返しまで安全確保のために協力を得ています。また、登山に同行してくれる保護者もいて、生徒の様子を見てくれています。

途中で激励してくれる保護者や一般の登山者に背中を押されながら、苦しさに耐え登り切る達成感は格別なものがあります。五合目から見る、北麓地域の景色は素晴らしいものがあります。地元で生活している生徒も、なかなか経験できない体験であり、今後も吉田中学校の特色として保護者、地域の協力をいただきながら、富士山学習の充実に努めていきたいと考えています。



馬返し休憩



五合目に向かって

特別支援教育の専門性のさらなる向上を目指して

— 山梨県総合教育センター 相談支援部 特別支援教育担当 —

学校全体で特別支援教育を推進するためには、

学校組織が一体となり支援体制をつくることが重要です。そのためには、管理職をはじめとする教員一人一人が、障害のある児童生徒に対する理解を深め、指導する力を持つことが必要です。

特に、特別支援教育は、個々の発達に即した適切な指導や、関係機関との調整が必要なことから、より高い専門性が求められていると言えます。

平成二十三年三月、山梨県特別支援教育振興審議会の答申が提出され、教職員の専門性についても、

「全ての学校において特別支援教育を推進するため、教職員の特別支援教育に対する理解を深め、専門性を向上させる必要がある」とした上で、

○ 研修及び指導実践の充実

○ 専門性のある教職員の計画的な養成・配置等の二点を今後の方向性とし、特に研修については、

○ 全ての学校の教職員を対象に、管理職、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級の担当者など、その求められる役割に応じた専門研修を充実させ、受講を促進する。

○ 特別な支援を必要とする児童生徒の各教科等の指導について、小・中・高等学校における実践研究を推進する。

従来からも、特別支援教育に関する研修は、総合教育センターの研修をはじめ、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所における研修、特別支援学校教員の専門免許取得を目指した免許法認定講習会、管理職、特別支援学級・通級指導教室の担当者及び特別支援教育コーディネーターを対象にした研修会等、様々な研修が行われてきました。今後も、施策や、現場のニーズに合わせた研修会がより一層必要になってくると思われる。

これらを受け、総合教育センターでは、特別支援教育に関する研修会の見直しを行い、必修研修会を含め十四の研修会に改編しました。昨年度までは、特別支援教育の基礎的及び普遍的内容に重点を置いた研修会を多く設けていましたが、今年度は、教員個々の経験や専門性、指導力等、多様なニーズに即した研修会を多く設けました。その中のいくつかの研修会を紹介します。

特別支援教育専門研修（501）

特別支援教育がより身近なものとなるためには、地域の中核となる人材の育成が期待されます。そのため、市町村教育委員会及び県立学校長から推薦されたコーディネーター等経験者を対象として、教育相談もできる特別支援教育の専門家の養成を目的とした研修です。

授業づくりシリーズ（505～507）

実践力を高めるために、授業づくりに焦点を当てた研修会を実施しています。今年度は、国語・自立活動・造形活動の三つを開設し、講義だけでなく、実技や演習等、より実践的な内容を盛り込みました。



研修会（505）のようす

通常学級における特別支援教育（508）

特別なニーズをもつ児童生徒への教育的支援をより充実させるため、対象を幼稚園・高等学校の教員まで拡大しました。今後、一貫した支援が行われることを目指しています。

「みんなで取り組む特別支援教育」を合い言葉に、今後も一人一人が着実にその専門性を積み上げていくことが、重要になってきます。それに応えるべく、今後も質の高い研修会を提供していきたいと考えています。

新委員長に

久保嶋 正子 氏が就任

県教育委員会では、渡邊努委員長の任期満了に伴い、後任の第七十四代委員長に久保嶋正子氏を選任しました。新委員長の任期は平成二十三年七月十七日から一年間です。



新委員長
久保嶋 正子

東日本大震災は、一度原点に戻って再出発せよと私たちに言っている気が致します。保護者であれば、わが子を初めて抱いた時の喜び、教員であれば初めて教壇に立った時の喜びを今一度思い出し、新たな気持ちで子供たちの教育に邁進して頂きたいと思えます。まして教職員の不祥事は決して出さぬよう一丸となって取り組んでいかなければなりません。

県教育委員会では平成二十一年に策定した県立高等学校整備基本構想を基に、山梨県高等学校審議会を立ち上げ、未来を担う本県の子供たちのため、新たな検討を始めました。

また、就職難が社会問題化する中、子供たちがどんな将来設計を描けるのか、キャリア教育を推進し、様々な取り組みを行って参りたいと思えます。

本県は、身近な所に歴史あり、自然ありスポーツあり、教育には適したところです。これらの優位性を活かしながら、委員長としても、本県教育の推進に尽力する所存です。

新委員に

石川 洋司 氏が就任

県教育委員会では、渡邊努委員長の任期満了に伴い、後任の教育委員として石川洋司氏が知事から任命されました。新委員の任期は平成二十三年七月二十日から平成二十七年七月十九日までです。



新委員
石川 洋司

三月十一日に発生した東日本大震災と原発事故は、未曾有の災害であり、未だに復興の目途が立っていません。そのような状況下、助け合いながら避難する人々や秩序ある避難所生活の様子に、多くの人が心をうたれ、海外からも称賛されました。このような姿は、古くから培われた日本人の精神性の現れと思えます。そして今「絆、思いやる心」が再認識されています。

県の教育振興プランに基づいた施策でも、「豊かな心の育成」に力が入れています。

また、新学習指導要領が小学校では本年度から、中学校では来年度から完成実施となります。「確かな学力」をつけることは、教育が求められている最重要課題です。さらに「体力づくり」も、大切な課題と考えられます。

新教育委員として、学校、家庭、地域が一体となり、山梨の良さをいかした「知・徳・体」のバランスのとれた教育の推進に励んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

「神々の黄昏」という詩が掲載されている本があるか

レファレンスの小道具

山梨県立図書館

※図書館では、みなさんの調べたい資料や情報を探してお手伝いをしています。このコーナーでは、皆さんから寄せられたご質問の調査・回答に使った資料を紹介します。

個々の現代詩の作品が、どの本に掲載されているかを調べるには…

『現代日本文学総覧シリーズ8 詩歌全集・作品名総覧』（日外アソシエーツ編・発行1988年・2000年）

個々の詩のタイトルは、OPAC（図書館の蔵書を検索する端末）で検索することはできません。そのような場合には、専用のレファレンス・ブックを使います。この本は、日本国内で発行された詩・短歌・俳句・川柳・童謡のタイトルから、その作品が収録されている全集を調べることができます。同書で調べた結果、西脇順三郎の「神々の黄昏」は、詩集「礼記（らいぎ）」の中の一編で、『日本の詩歌』第12巻（中央公論社 1964年）などに収録されていることがわかりました。また「礼記」という詩集のタイトルがわかれば、OPACでの検索も可能になります。

山梨の文化財

重要文化財

旧外川家住宅（富士吉田市上吉田）

（平成二十三年六月二十日）

旧外川家住宅は、富士山北麓を富士山に向かってまっすぐ延びる富士道（国道一三九号）沿いに拓かれた富士吉田市街に所在する富士山御師の住宅である。

富士信仰の神職である富士山御師の住宅は、富士登山に訪れる参拝者の宿としても供された。街路から奥まった敷地は、南北約一一メートル、東西約一一三メートルで、

富士道に面する敷地前半の南側にタツミチと呼ばれる引込路をもつ旗竿形を呈し、主屋と離座敷が前後に並び建つ、富士山御師住宅の典型的な屋敷構えを持っている。



明和五年（一七六八年）に建築された主屋は、年代の明らかな最古の御師住宅であり、江戸末期の建築と見られる離座敷は、中央部に神殿を備え、背面上段の間をつくるなど、富士信仰の流行とともに発展した姿をよくとどめており、いずれも高い歴史的価値が認められる。

また敷地には、中門や物置のほか、御師住宅を特徴づける引込路や水路、富士講に由来する石碑や塚が敷地割りとともに良好に保存されている。

主な行事予定

県立美術館

特別展

「川端康成コレクションと東山魁夷」

9/17～11/6

県立博物館

企画展

「柳沢吉保と甲府城」

10/8～11/28

県立考古博物館

第29回特別展

「縄文土器名宝展〜縄文技術の到達点〜」

9/28～11/23

県立文学館

企画展

「深沢七郎の文学」

「檀山節考」ギターの調べとともに
9/10～11/6

表紙を飾る



県立盲学校

小学部2年

吉備津蒼太

作品タイトル

「これいいかんじザラザラフワフワ
ーでこぼこきょうりゅうー」

身のまわりにある材料の特徴（手触りや量感、形の変化など）を生かして、自分なりに工夫してつくる題材です。

まず、シワシワにした紙を袋状にして、その中にスポンジを詰めてふくらませ、丸めて量感を付け、麻紐やテープなどで留めながら恐竜の胴体と頭部をつくりました。次に、そのまわりに、ちぎったり切り込みを入れたりして変形させたウレタンを貼り付けました。最後に、ペットボトルの足をつけて完成です。

机いっぱい材料を広げ、つくりたいもののイメージを十分ふくらませ、何回も手直しをしながら、自分の世界をつくっていきました。

指導者：落合洋一 教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html